

歯科治療恐怖症児（者）に対して，3Mix-MP 法をスムーズに施行できるようにするための歯科治療カード，歯科治療予習フォルダ，歯科治療ボード

九鬼武良 KUKI Takeyoshi

くき歯科
〒556-0024 大阪府大阪市浪速区塩草3-3-26

はじめに

一昨年，3Mix-MP 法がマスコミに登場して以来，当院にも歯科治療恐怖症児（者）の受診が増えた。このような患者にとって，「麻酔をしない」「痛くない」「歯を削る量が非常に少ない」「治療回数が少ない」3Mix-MP 法は福音と感じられる治療法である。しかし，いかに3Mix-MP 法といえども，診療台に寝て，一定時間開口し，わずかな量ではあるが歯の削合をおこなわなければ，その効力を十分に発揮することができない。このわずかなことが，歯科治療恐怖症児（者）にとって大きなストレスとなっていることは事実である。したがって，このストレスを軽減し，よりスムーズに3Mix-MP 法を施術できるようにするためには，①術前に3Mix-MP 法が「痛くない」ことを理解してもらう→治療に対する恐怖を軽減する，②術前に3Mix-MP 法の「術式」を理解してもらうことで，術中の治療の進行状況を把握してもらう→治療中の不安（「次は何をするの？」「今どんな器具を使っているの？」「いつ，終わるの？」等）を軽減する，などが効果的であると考えた。

そこで，そのためのグッズとして，「歯科治療カ

ード」「歯科治療予習フォルダ」「歯科治療ボード」を当院で作成し，使用している。その結果，3Mix-MP 法との相性も良く，患者にも好評という好結果が得られたので，上記のシステムと当院での活用法について報告したい。

歯科治療カード

基本カードは約100種類である。①レントゲン，②3Mix-MP 法（図1），③レジン充填，④インレー修復，⑤根管治療等の項目について作成し，それらを組み合わせて患者に見てもらえるようにした。また，カードは，「貸し出し用」（歯科治療予習フォルダに入れるカード，図2）と「ボード用」（歯科治療ボードに貼るカード，図3）の2種類を作成した。診療室におけるカードはウォール・ポケット（図4）に保管し，診療内容や用途（貸し出し用・ボード用）別に整理して短時間でセットを組み合わせられるようにした。

歯科治療予習フォルダ

次回に予定している診療内容のカードをその治療



図1 歯科治療カードの一例 (3Mix-MP 法カードの各種).



図2 貸し出しカード。写真画質用紙を使用し、子供に危険がないようにカードの角は丸くカットした。

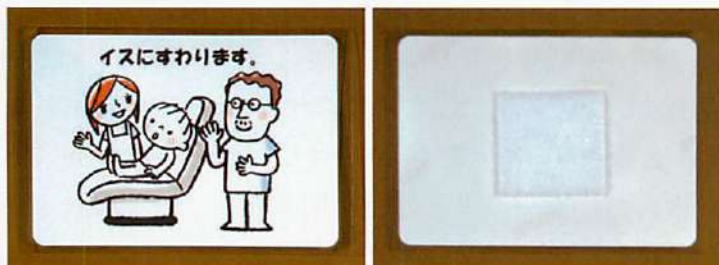


図3 ボードカード。ラミネート処理し、マジックテープでボードに貼れるようにした。



図4 カード保管用ウォール・ポケット。
診療室において、貸し出しカードやボードカードを診療内容別に保管するためのもの。



図5 歯科治療予習フォルダ。

順にフォルダにセットし、次回の治療日まで自宅で繰り返し見ってもらうようにしている。特に、乳幼児や歯科治療恐怖症児(者)、障害児(者)の場合は、保護者に“絵本を読むようにゆっくり話しかけながら見せるように”とお願いしている。

歯科治療ボード

当院には3台のチェアがあるが、すべてに歯科治療ボードを設置している(図6)。現在のところ、背もたれを起こした状態にしなければ、患者が治療ボードを見ることができないチェアもあるが、歯科治療恐怖症児(者)の治療の場合、一気に治療を進めないで、ワンステップごとに背もたれを起こして歯科治療ボードを確認してもらいながら治療を進

めることが有効である。現在の使い方であるが、ボード(図7-a)のマジックテープの上に、その日の治療内容と合致したラミネートタイプのカードのセットを並べて貼る(図7-b)。そのセットの内容は、患者に自宅へ持ち帰ってもらっている歯科治療予習フォルダ(カード)と同じものである。時計形式にしているのは、治療の進行に合わせて針を進めることにより、治療の“進行状況”と“ゴール”を患者に理解させるためである(図7-c)。乳幼児や歯科治療恐怖症児(者)、障害児(者)にとっては、現在の治療内容や進行状況を把握してもらうことも重要なポイントであるが、現在の治療が“あと何ステップで終わるのか”つまりその日の治療のゴールを患者が確認・把握できることが、歯科治療に対する不安を取り除くことに有効であると考えている。



図6 当院の診療室.



a

図7 歯科治療ボード.



b



c

おわりに

「麻酔をしない」「痛くない」「歯を削る量が非常に少ない」「治療回数が少ない」3Mix-MP法は歯科治療の必要な障害児（者）にとって大きな福音である。しかし、患者にとってストレスの少ない3Mix-MP法であっても、障害児（者）を含む歯科治療恐怖症児（者）にとっては、まだ乗り越えなければならない壁がある。そこで、治療に対する“減感作療法”として、「歯科治療カード」「歯科治療予習フォルダ」「歯科治療ボード」を考案し、試行したとこ

ろ、3Mix-MP法をスムーズに施術することができた。一般患者に対しての歯科治療に際しても十分な説明が必要であることは当然であるが、今後も障害児（者）および歯科治療恐怖症児（者）に対する歯科治療の行動変容法の1つとして、「歯科治療カード」「歯科治療予習フォルダ」「歯科治療ボード」をより有効に利用していくために、カードの追加や再構成、システムの改良を続け、3Mix-MP法のメリットをより多くの人が理解・享受し、障害児（者）歯科治療にも役立つようにしていきたいと考えている。 □